

はんだ山の風



栄養部

私たちは食事・栄養面から患者さんの治療を支えます。

Contents

- P2 シリーズ最新医療 vol.43『ロボティックアームによる低侵襲手術の実現
～Mako® Systemについて』 整形外科 特任講師 花田 充
- P3 シリーズ最新医療 vol.44『パーキンソン病の解説とその治療方法について』
脳神経内科 特任教授 中村 友彦
- P4 病気ここが知りたい『手足のむくみとリンパ浮腫 ～形成外科とリンパ浮腫センターについて』
形成外科 教授 中川 雅裕
- P5 病気ここが知りたい『シンプルな習慣でリスクを減らそう ～冬の感染対策』
感染制御センター センター長 特任講師 古橋 一樹
- P6 看護部『医師とともに患者を支える ～現場をリードする特定看護師たち』
- P8 季節の食材レシピ ～冬のおいしさを、味わう 栄養部 主任管理栄養士 位田 文香
- P10 薬剤部『薬剤師の仕事を学ぼう ～子ども病院薬剤師体験』 薬剤部 薬剤主任 田中 達也
- P11 はんだ山トピックス 2024 9/30(月) 18年後の交流会 ～未来へのエール
2024 10/16(水) 防災イベント ～「防災を考える TKB48を知ろう」
2024 11/9(土) 令和6年度地震防災訓練および消防訓練
- P12 浜松医科大学 地域連携Webセミナーのご案内(第44・45回) 医療福祉支援センター地域連携室
- P12 INFORMATION 入院病棟 差額室リニューアル 開催 令和6年度 アレルギー週間市民公開講座



当院は日本医療機能
評価機構認定病院です。
(一般病院3)

病院紹介動画は
こちらから





これまで整形外科では、人工膝関節全置換術、人工股関節全置換術は主にコンピューターナビゲーションを使用して行ってきました。この方法でも従来のマニュアルな方法よりは正確性が向上しましたが、術者の経験と注意はやはり必要であり、患者さんの身体への負担となる侵襲の面でも改善できる余地があると感じていました。

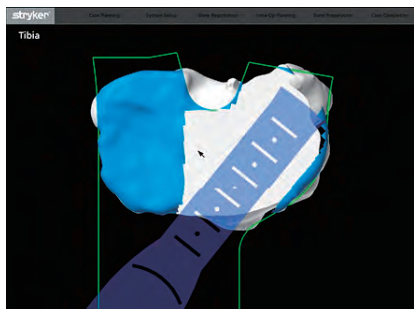
そこで、低侵襲かつ安全で正確な手術を実現するために、人工関節置換術用の手術支援ロボット「Mako® System」を導入しました。このシステムは平成18年(2006年)に米国で販売開始され、日本では平成29年(2017年)に人工股関節用、平成31年(2019年)4月に人工膝関節用が承認されています。

ロボットというと「人の代わりに作業を行い、自動で動くもの」「人が操作して動かすもの」という印象がありますが、今回導入した「ロボティックアーム」と呼ばれるロボットは、医師が操作して動かすもので、術者のサポートツールとしての側面を有します。手術中に使用するポーンソー・リーマー(骨切除用の電動器具)はコンピューター制御の「ロボティックアーム」に接続され、切除が不要な部位に

は進まず、神経や血管の近くでは自動停止する安全性を備えています。さらに、コンピューター制御により、関節周囲の靭帯や筋肉などの軟部組織へのダメージも回避できるため、低侵襲な手術が可能です。実際に術後の疼痛軽減にともなう早期機能回復、入院期間の短縮、術後脱臼などの合併症の低減(人工股関節全置換術)に関する多くの報告があります。

また、これまで人工関節置換術は主に高齢の患者さんを対象に行われてきましたが、近年のインプラントの改良と手術技術の進展により、若い年代の患者さんにも適用されるようになってきました。若年の患者さんにおいては、インプラントの長期耐久性が求められるため、高度な術前計画を再現できる手術支援ロボットの重要性はより高いと考えています。

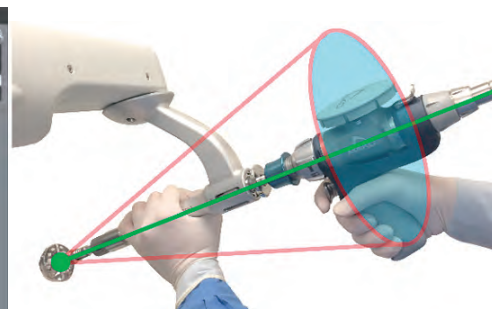
コンピューターナビゲーションの経験が豊富な我々、整形外科は、今回の「ロボティックアーム」の導入もスムーズに進めることができました。この技術は、患者さんに適した治療を提供できる新しい技術であると考えています。



人工膝関節置換術
緑色の枠線より外側にはポーンソー(青色の刃)がコンピューター制御で進まないため、後方の神経、血管を損傷するリスクが低減される



人工股関節置換術
ポーンソー・リーマーがコンピューター制御で同心円状に動くため、正確な掘削が可能である



※画像提供 ストライカー株式会社



パーキンソン病は脳の病気で、中脳にあるドーパミン神経細胞が減少することによって引き起こされます。このドーパミン神経細胞は運動機能の調整に重要な役割を果たしており、不足すると以下のような症状が現れます。

- ①手足の震え(振戦)
- ②筋肉のこわばり(筋強剛)
- ③動作の遅さ(動作緩慢)

発症年齢

パーキンソン病は主に60歳前後で発症しますが、超高齢社会の日本では80歳代での発症も珍しくありません。

非運動症状

便秘、立ちくらみ、疲れやすさ、尿漏れ、汗の異常、物忘れといった非運動症状も見られます。これらの症状は見落とされがちですが、日常生活を快適に保つためには適切な対策が重要です。

発症の原因

パーキンソン病の発症原因は、遺伝によるものが約10%を占める一方、残りの原因は十分に解明されていないため、予防は難しいとされています。カフェインに予防効果があるとする説もありますが、過剰摂取には注意が必要です。

治療法

治療には、ドーパミンを補うためのレボドパという薬が主に使用されます。しかし、長期間の使用により、薬の効果が短期間であったり、逆に過剰に反応して体がぐねぐねと動いてしまうことがあります。これを

防ぐために、さまざまな補助薬が用意されています。補助薬とレボドパの使用方法は、患者さんの状態によって異なります。

進行した場合の治療法

症状が進行した場合、デバイス補助療法が検討されます。その治療法には以下の方法があります。

- ①脳深部刺激療法(DBS)：脳内に電極を挿入し、電気信号を送ることで異常な電気活動をコントロールします。
- ②レボドパ/カルビドパ配合剤持続経腸療法(LCIG)：ポンプで小腸にレボドパを持続的に注入します。
- ③持続皮下注療法：最近登場した方法で、お腹の皮膚に細い針を刺し、持続的に皮下に治療薬を注入します(図1・図2)。

当科では、これまでに3名の患者さんが持続皮下注療法を受けており、毎日の薬の服用回数が減少し、動きも以前より改善しています。なお、どの治療法が適切かは患者さんの状態に応じて異なるため、主治医の先生と相談することが重要です。



図1:持続皮下注療法に使用する機器



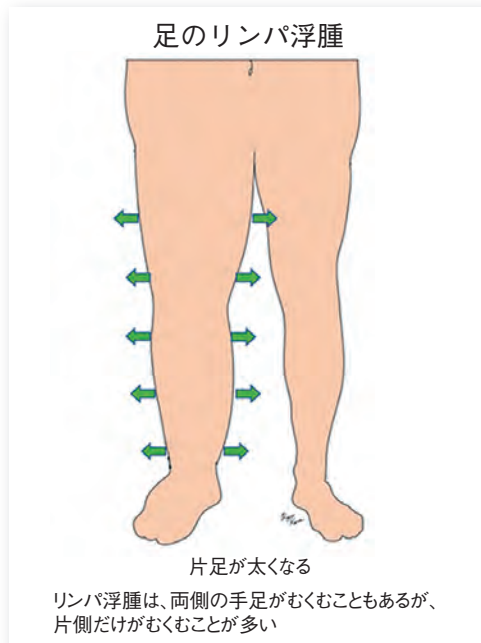
図2:機器は携帯することができ、日常生活を送ることが可能



手足のむくみとリンパ浮腫 ～形成外科とリンパ浮腫センターについて



形成外科 教授 中川 雅裕



形成外科は、整形外科や美容外科と間違えられることが多いのですが、主に皮膚のできもの(皮膚腫瘍・母斑)や傷あと、顔や手足のけがなど、体の表面の病気の治療をします。一方、整形外科は骨や筋肉、靭帯、関節などの運動器の病気の治療をします。また、美容外科は病気ではなく、健康な方の見た目の改善を目的とした治療を行うため、保険診療ではなく自費診療となります。

形成外科は、頭から足まで、さまざまな体表の病気の治療を行うのですが、リンパ浮腫という手足のむくみの治療も行っています。手足のむくみは、さまざまな原因で起こります。心臓や腎臓などの内臓の働きが悪い場合や、歩行などの運動をしない場合やできない場合、足の血管に深部静脈血栓という血のかたまりができた場合などがあります。それ以外にも、婦人科がんや乳がんの手術でリンパ節郭清を行った後に生じるリンパ浮腫があります。

リンパ浮腫は、これまでよい治療法がなく、患者さんが困っていたのですが、本院ではリンパ浮腫センターを立ち上げ、血管外科とリハビリテーション科との協力で、さまざまな治療ができるようになりました。リンパ浮腫の治療法にはフットケアや圧迫療法、運動療法、リンパドレナージなどを組み合わせた複合的理学療法といわれる治療や、リンパ管静脈吻合術といわれる手術の治療などがあります。リンパ管静脈吻合術は、手や足のむくんでいる部分を2～3cmほど小さく皮膚を切開し、皮膚の下にある1mm以下のリンパ管と血管を、手術用顕微鏡を使って縫い合わせるという、新しい低侵襲の治療法です。

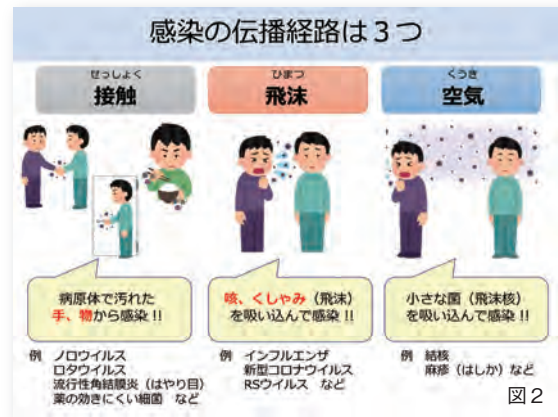
このようにリンパ浮腫にはさまざまな治療法があり、それぞれの患者さんの状態に適した治療を選択しています。手足のむくみが気になる方はかかりつけ医を通して、本院へご相談ください。



シンプルな習慣でリスクを減らそう ～冬の感染対策



感染制御センター センター長
特任講師 古橋 一樹



冬は気温が下がり空気が乾燥するため、鼻や喉、気管支の粘膜が弱くなり、感染しやすい季節とされています。乾燥によって小さくなった飛沫は空中に長く浮遊することがあるため、感染症が広がりやすくなります。また、寒さで室内換気の頻度が減り、冷たい水での手洗いを避けがちになることも感染リスクを高める原因となります。

冬に流行する感染症には、発熱や咳、鼻水、咽頭痛などを伴うインフルエンザ、新型コロナウイルス感染症、RSウイルス感染症などの気道感染症、そして嘔吐や下痢、腹痛を引き起こすノロウイルスやロタウイルスなどによる感染性胃腸炎があります。どちらも冬に注意が必要な感染症ですが、これらの感染症に対して取り組まなければならない感染対策は、夏であっても冬であっても実は同じものです。

感染対策は「感染成立に必要な要素(図1)」を理解し、そのポイントさえ押さえればとてもシンプルです。当センターで医学部の学生や地域の小学生向けの授業でも伝えている内容なので、ぜひ参考にしてください。

感染成立には6つの要素(病原体、病原性、病原体の量、感受性のある宿主、侵入門戸、伝播経路)が必要です。そのなかでも「侵入門戸」と「伝播経路」は、私たちでも感染成立を阻止できる要素です。

侵入門戸(体内に侵入する主な入り口)は、口・目・鼻の粘膜面ですが、粘液のバリアや免疫細胞の働きで簡単には侵入できません。

そして、感染を防ぐためには3つの伝播経路を断つことです(図2)。

1. 接触感染の予防

手や物を介して病原体が目や鼻、口の粘膜に触れることで感染が広がります。特にノロウイルスやロタウイルスはこの経路で拡大します。対策としては「アルコール手指消毒」も有効ですが効果が薄く、「流水と石鹸による手洗い」が推奨されます。寒くても、帰宅後は必ず手を洗う習慣をつけましょう。

2. 飛沫感染の予防

咳やくしゃみ、会話で飛び散る飛沫を吸い込むことで感染が広がります。新型コロナウイルス感染症で知られるこの経路は、インフルエンザやRSウイルス感染症にも共通です。対策としては「マスクの着用」や「咳エチケット」を実践し、飛沫を防ぐことを心がけましょう。もちろん室内であれば換気も効果的です。

3. 空気感染の予防

空気感染予防策が必要なのは、結核や麻疹(はしか)などです。これらは冬季に限らず特殊な感染症のため、予防が難しいのが特徴です。

感染対策の基本は、体への「侵入門戸」と「伝播経路」を断つことです。手洗いや咳エチケットなどのシンプルな対策を習慣化することで、感染リスクを効果的に減らせます。冬はもちろん、季節を問わず取り組んでいきましょう。



医師とともに患者を支える ～現場をリードする特定看護師たち

本院では看護師特定行為研修を修了した看護師(特定看護師)が一般病棟に配属され、医師の補助業務を行っています。2階西病棟には、内科外科を問わず心疾患の患者さんが入院しています。早期に患者さんの状態変化や急変リスクを予測し、介入することが治療経過に影響するため、当部署では特定看護師が柔軟に活動できるように看護体制を整えています。その取り組みや今後の展望を現場の看護師と医師が語り合いました。



管理者として特定看護師の効果的な活用を検討中の西野看護師長



自身の知識や技術の向上を課題ととらえる飯田副看護師長

西野：小児科での経験が長く、成人病棟で働くには相応の知識が必要と思い特定行為研修を受講しました。看護師長になって直接ケアをすることは少なくなりましたが、急変リスクの高い患者さんの病室を決めたり、受け持ち患者さんの配分などで学んできたことが活かされていると思います。

飯田：以前勤務していた集中治療室には、常に医師がいて検査の値とか病態の複雑なところについて話しているのですが、ついていけなくて……。先生たちの話の内容が理解できるようになりたいというか(笑)、それが研修を受講するきっかけでした。今病棟では医師が常駐している訳ではないので、看護師同士で検査の値や病態の話をするとき、根拠を示せるところで役立っていますね。

牧野：診療科担当看護師(心臓血管外科)として活動するにあたって、技術や知識を習得したいという気持ちもあったので特定看護師を目指しました。採血とかリード抜去^{※1}とかをやっていますが、大箸先生が気にかけてくれるし、自分から声もかけやすいしありがたいなと思っています。

飯田：特定行為の処置は慣れているわけではないので不安はあります。ただ、先生たちと回診している時なので、自分がひとりでやるわけではないから着実に技術は身につけられていると思います。

大箸：医師の立場から見て、特定看護師の活動はありがたいですね。看護師さんは自分たちよりも患者さんに近い所にいるのでいろいろ気づくのが早い。特定行為研修を受講していない看護師さんも興味を持っているように見受けられたので、周りへの刺激になっているのかなと思います。

牧野：そうなんです。私はエコー^{※2}を使って静脈穿刺をするんですけど、そういうやり方があるなら学びたいって、みんな技術を習得したいと思っているんだろうなって。技術が身につくと確実に安全にできるということにつながるし。



飯田：看護師の間でも特定行為研修で何をやっているのか、修了生の得意分野とかあんまり知られていないのと思う。日々の会話のなかで患者さんの病態を説明できる機会が増えると特定看護師はちゃんと勉強してる人だって認知度が上がって行くのかな。研修を受けて終わりじゃなくて、技術を磨いたり、知識を深めたり、しっかりブラッシュアップして周りに広めていくことが必要だと思う。

牧野：自己研鑽も必要だけど、特定看護師の間でも情報交換できたらいいよね。看護の技術とかスタッフの教育とかの底上げができて質の向上につながる気がする。特定行為の実践を拡げることは、同じ部署で働くスタッフへの影響も大きいし、医師の業務負担の軽減につながったりもするし。

西野：特定看護師の活躍は病棟スタッフ全体にいい影響があると思います。部署のなかで特定看護師をどう活用したいのかを示すことも大事かもしれないですね。

大箸：やる気のある人が集まっている病棟なので、学んだ事を活かし、さらに成長できる機会をとっています。そのために教育とか機会をどう提供するかを考えていきます。

看護キャリア開発センターでは、平成31年(2019年)から特定行為研修を開講しており、本院には特定行為研修を終了した看護師が31名。その数は全国でも上位に入ります。特定行為研修を受講し、トレーニングを受けた専門性の高い知識と技術を備えた看護師が院内に配属されています。対談で取り上げた2階西病棟では、医師と看護師が互いにサポートし、最適な療養環境を提供しています。

注1：心臓に人工的に電気刺激を与えて、心臓の収縮をコントロールするための導線

注2：超音波を対象物に当て反響を映像化する画像検査法



特定看護師同士の連携や医師の業務負担軽減を考える牧野看護師



特定看護師育成担当でよく相談相手の大箸医師

季節の食材レシピ ~冬の



574
kcal

焼きぶり大根と炊き込みごはんの栄養満点定食

寒い季節は、さまざまな感染症が流行しやすく、体調を崩しやすいため、健康管理が大切です。特にこの時期に取り入れたい栄養素は、免疫細胞の働きに欠かせないたんぱく質やビタミンACE(エース)などです。また、腸内環境を整えておくことも重要であることが明らかになってきており、食物繊維も合わせてとれるとよいでしょう。これらの栄養素

は、今回紹介する4つの料理をいつもの食事にプラスすることで摂取できます。

浜松の代表的な果物としてみかんが挙げられます。今回はサラダのドレッシングにみかんの果汁を使用しております。鮮やかなオレンジ色で、さっぱりしたなかにもコクがあり、おすすめです。

冬の栄養満点定食をぜひ味わってみてください。

今回の旬の食材



れんこん

疲労回復効果のあるビタミンCや腸内環境を整える食物繊維など、豊富な栄養素が含まれています。



ぶり

DHAやEPAを多く含んでいます。この栄養素は、記憶力向上や動脈硬化などの予防が期待できます。



大根

カリウムは、とりすぎた塩分を排出する働きがあり、高血圧予防やむくみの解消につながります。



ブロッコリー

β-カロテンは、口や鼻、のどなどの粘膜を健康に保つことを助けてくれる働きがあります。



みかん

β-クリプトキサンチンを多く含む温州みかんは、骨粗しょう症を予防する可能性があります。

おいしさを、味わう



栄養部 主任管理栄養士 位田 文香

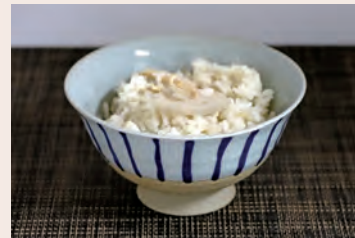
272
kcal

れんこん炊き込みごはん

- 1 米は研いで、水気を切っておく。
- 2 炊飯器に米と白だしを入れ、2合の目盛りまで水(分量外)を加え、ひと混ぜする。
- 3 2に水気を切ったれんこん、油揚げをのせて炊く。
- 4 炊き上がり後、すぐに具とごはんを混ぜる。
- 5 10～15分ほど蒸らし、器に盛りつける。

材料

- 米:2合
- れんこん:150g
(皮をむいて5mm幅のいちよう切りにして水にさらす)
- 油揚げ:1/2枚(1cm幅に切る)
- 白だし:大さじ3



228
kcal

焼きぶり大根

- 1 大根は電子レンジで2分30秒(600W)加熱。
- 2 フライパンにサラダ油を熱し、ぶりと大根を並べて、両面こんがり焼き目がつくまで焼く。
- 3 火が通ったら、ぶりと大根を器に盛りつけておく。
- 4 フライパンに調味料Aを入れて煮詰める。
- 5 ぶりに煮詰めた4をかける。

材料

- ぶり:4切
- 大根:240g
(皮をむいて2cm幅の輪切り)
- サラダ油 大さじ1/2
- 調味料A
醤油:大さじ2 酒:大さじ2
みりん:大さじ2
砂糖:大さじ1と1/2



33
kcal

ブロッコリーのごま和え

- 1 ブロッコリーは、電子レンジで2分(600W)加熱。
- 2 ボウルにブロッコリーを入れ、調味料Aを入れて和える。
- 3 器に盛る。

材料

- ブロッコリー:120g
(小房に切る)
- 調味料A
すりごま:大さじ1
醤油:小さじ1
砂糖:小さじ1



41
kcal

みかンドレッシングサラダ

- 1 みかんは横半分に切り、絞り器で果汁を絞る(絞り汁として50ml程度)。
- 2 ボウルに①と調味料Aの酢、塩、こしょうの順に入れよく混ぜ、最後にオリーブオイルを加えてさらに混ぜる。
- 3 ベビーリーフを器に盛り、にんじんとミニトマトを彩りよくのせる。
- 4 食べる直前に、みかンドレッシングをかける。

材料

- ベビーリーフ:80g
- にんじん:20g(せん切り)
- ミニトマト:4個(4等分に切る)
- みかん:1個
- 調味料A
酢:大さじ1 塩:2つまみ こしょう:少々 オリーブオイル:大さじ1



※食材は4人分 栄養価はひとり分の数値です



令和6年度(2024年度)浜松医科大学社会貢献事業として、10月6日(日)に地域の小学校の高学年を対象に『子ども病院薬剤師体験』を薬剤部で実施しました。

本事業は、小学生が「薬剤師」の職業体験を通じて、病院薬剤師の仕事内容だけでなく、正しい薬物治療に関する知識や情報への関心を高めることが目的で、今回は親子合わせて23名(子ども薬剤師12名)にご参加いただきました。

子どもたちは薬剤師と同じ白衣を着て薬剤部見学、錠剤分包調剤、計量調剤を体験した後に、お薬や薬剤師に関するクイズ大会を行い、最後に修了証書とお薬手帳をお渡しして終了しました。

薬剤部の見学は、薬品棚に並んでいる医薬品や薬剤師が調剤・鑑査を実施する様子、内服薬や注射薬を自動で取り集めする機器、散剤を自動で分包する機器について、薬剤師がどのような点に注意しながら仕事をしているかを含めて説明しました。

錠剤分包調剤では、超小型分包機を用いて、ラムネなどのお菓子を薬剤と見立てて一包化し、中身の

確認や用法用量などの処方鑑査を体験しました。

計量調剤の体験は、粉末ジュースをドライシロップに見立てて必要な量を正しく量り取り、投薬びんで水に溶かして、溶け残りや異物が入っていないかを確認するを経験しました。

体験後のアンケートでは、「普段は見ることができない所を見られてよかった」「見学と体験をしてみてもさらに興味を持った」「とても興味深く親子で勉強になった」など、多くの感想をいただき、本院薬剤師も充実した時間を過ごすことができました。『子ども病院薬剤師体験』を通して、子どもたちはもちろん、保護者の皆さんにも、病院薬剤師の仕事について知っていただき、普段学校で学んでいる理科や算数が実際の社会や医療につながっていることを理解し、薬剤師が身近な存在になるように継続して開催していきたいです。

最後に本学社会貢献事業よりご支援いただき、開催することができました。この場を借りて御礼申し上げます。



2024
9/30 (月)

18年後の交流会 ～未来へのエール

平成24年(2012年)ロンドン、平成28年(2016年)リオデジャネイロパラリンピックに出場した元陸上選手の佐藤圭太さんとの交流会が外来棟の中庭で開催されました。「この病院で多くの人に支えられた」と語った佐藤さんは中学3年生の時、右下肢ユーイング肉腫と診断され、本院で右膝下切断手術を受けました。当時リハビリを担当した山内先生は「切断した翌日からリハビリに取り組む姿勢は非常に前向きでたくましかった」と振り返りました。現役を退き「今度は手を差し伸べる番」と人々を支える立場を歩み始めた佐藤さん。その前向きな姿勢に患者さんや医療関係者は大きな勇気を与えられました。



2024
10/16 (水)

防災イベント～「防災を考える TKB48を知ろう」

「防災を考える TKB48を知ろう」が多目的ホールで開催されました。TKBは、「T=トイレ」「K=キッチン」「B=ベッド」の略であり、災害発生時にそれらを「48時間以内に避難所などへ設置する」ことにより、災害関連死を防ぐことにつながると、近年重要視されている標語です。この日は、組み立て式の簡易トイレや段ボールベッドの展示などTKBにちなんだブースが設けられ、なかにはおいしかったものに投票する非常食試食会も行われました。患者さんや病院職員合わせておよそ100人が来場し、そのにぎわいとともに関心も高まるイベントとなりました。



2024
11/9 (土)



令和6年度地震防災訓練および消防訓練

南海トラフ地震を想定した実動訓練が実施されました。病院災害対策室では、状況が刻々と変化するなか、実際の災害から得た知見を基に作られた「現状分析と活動方針」シートを用いて、職員が対応方法について議論し、病院の方針を決定する訓練を行いました。また、診療エリアでは、多数の傷病者に対応するため、重症度分け(トリアージ)訓練やトリアージ後の診療訓練を実施し、限られた資源での診療方法について議論、実践しました。本院では毎年大規模災害を想定した訓練を行っており、引き続き防災意識を高めてまいります。



浜松医科大学 地域連携Webセミナーのご案内 (医療従事者向け)

診療科長の先生を中心に、本院の特長とも言える診療内容を紹介しております。
各医療機関の皆さまのご参加をお待ちしております。(3月の開催はありません)

開催回	開催日時	講師	申込締切
第44回	2月26日(水) 19時30分～ 20時30分	 いたみセンター特集 麻酔科蘇生科 講師 木村 哲朗 先生 演題未定	2月25日(火)
第45回	4月16日(水) 19時00分～ 20時00分	 小児外科 特任教授 澤井 利夫 先生 演題未定	4月15日(火)

4月から開始時刻が19時00分～に変更となります。

事前申し込み方法： メールまたは申し込みフォームにてお申し込みください。

詳細は本院ホームページ（地域連携Webセミナー）をご確認ください。

お問い合わせ： 地域連携Webセミナー担当事務局（地域連携室内）

電話：053-435-2637 FAX：053-435-2849（平日8：30～18：00）

E-mail：tiren-seminar@hama-med.ac.jp



インフォメーション

INFORMATION

本院の最新情報をお届け!!

01 入院病棟 差額室リニューアル

本院の入院病棟差額室がリニューアルしました。どのお部屋も落ち着いた色味を基調とし、快適で開放的な空間を実現。プライバシーに配慮し、患者さんが治療に専念できるくつろげる環境に様変わりしました。詳細は下記本院ホームページをご覧ください。

<https://www.hama-med.ac.jp/hos/about-us/about.html>



※写真は特別室V

令和6年度 市民公開講座 アレルギー週間
浜松医科大学医学部附属病院
講師：須田 隆文 先生、藤澤 朋幸 先生、福地 健祐 先生、加納 康太郎 先生
2/15(土) 13:30～16:30
会場：アクトシティ浜松 コングレスセンター5F 会議室
定額100%



02 開催 令和6年度 アレルギー週間市民公開講座

2025年(令和7年)2月15日(土)にアクトシティ浜松コングレスセンター5F会議室にて、市民公開講座を開催いたします。お申込みは上部二次元コードよりお申込みください。詳細は下記本院ホームページをご覧ください。

<https://www.hama-med.ac.jp/hos/topics/2024/30584.html>

外来診療日一覧

2025.01.1現在

受付時間 午前8時30分～11時 一般外来・専門外来
午後0時30分～2時 専門外来

○：午前
◆：予約のみ

休診日 土曜日および日曜日、祝日法による休日、12月29日～翌年1月3日

診療科名	診療日										備考
	初診					再診					
	月	火	水	木	金	月	火	水	木	金	
内科 受付電話 435-2632 ※神経・難病センター 受付電話 435-2484											
一般内科	◆	◆	◆	◆	◆	◆	◆	◆	◆	◆	
消化器内科	◆	◆	◆	◆	◆	◆	◆	◆	◆	◆	
腎臓内科	◆	◆	◆	◆	◆	◆	◆	◆	◆	◆	木曜日：午後のみ 水曜日：午前のみ
※脳神経内科	◆	◆	◆		◆	◆	◆	◆		◆	
内分泌・代謝内科	◆	◆		◆	◆	◆	◆		◆	◆	
呼吸器内科	◆	◆		◆	◆	◆	◆		◆	◆	
肝臓内科	◆	◆	◆		◆	◆	◆	◆		◆	
循環器内科	◆	◆	◆	◆	◆	◆	◆	◆	◆	◆	火曜日：午後のみ 木曜日：午前のみ
血液内科	◆		◆	◆	◆	◆	◆	◆	◆	◆	
※免疫・リウマチ内科	◆		◆	◆	◆	◆		◆	◆	◆	
臨床薬理内科	◆			◆	◆	◆			◆	◆	要問い合わせ
IBDセンター	◆		◆		◆			◆		◆	
専門外来				◆					◆		午後のみ
家族性消化器腫瘍外来				◆							午後のみ
脳神経病態外来	◆					◆					午後のみ：第1、2、3、5週
早期認知症外来					◆						午後のみ
感染症専門外来			◆					◆			午後のみ
禁煙外来	◆							◆			※2021.7～休診
ペースメーカー外来											予約のみ 要問い合わせ
ピロリ菌外来											午後のみ
合併症外来	◆								◆		
精神科神経科 受付電話 435-2635											
初診・再診		◆	◆	◆	◆		◆	◆	◆	◆	
専門外来 摂食障害専門外来									◆	◆	
小児科 受付電話 435-2638											
初診・再診	◆	◆	◆	◆	◆	◆	◆	◆	◆	◆	
内分泌・遺伝		◆						◆			
内分泌		◆						◆			
心臓				◆	◆				◆	◆	
血液腫瘍				※	※				◆	◆	※初診は随時電話で
免疫・アレルギー	◆			◆	◆	◆			◆	◆	
神経	◆	◆		◆	◆	◆	◆		◆	◆	
腎臓	◆			◆					◆	◆	
新生児フォローアップ						◆	◆			◆	
乳児検診	◆						◆				
長期フォローアップ外来									◆		第4週のみ
特殊予防接種										◆	
小児外科 受付電話 435-2638											
初診・再診		◆		◆		◆	◆		◆		
外科 受付電話 435-2641・2642											
心臓血管外科	○		○	◆	◆	○		○	◆	◆	
呼吸器外科			◆					◆		◆	
乳腺外科	◆	◆	◆		◆	◆	◆			◆	水曜日：家族性乳腺腫瘍外来(午後)
一般外科	○		○		○	○		○		○	
上部消化管外科		◆	◆					◆	◆		
下部消化管外科	◆					◆			◆	◆	
肝・胆・膵外科				◆	◆				◆	◆	
血管外科		◆			◆		◆		◆	◆	金曜日：下肢静脈瘤
IBDセンター	◆					◆					
リンパ浮腫センター				◆					◆		
専門外来					◆					◆	
肥満減量外来	◆	◆			◆	◆	◆	◆		◆	
緩和ケア外来			◆		◆	◆	◆	◆		◆	
脳神経外科 受付電話 435-2644											
初診・再診	◆	◆		◆	◆		◆		◆	◆	
整形外科 受付電話 435-2647											
初診・再診	◆		◆	◆	◆	◆		◆	◆	◆	
教授外来(脊椎)	◆			◆		◆			◆		
骨粗鬆症				◆					◆		
リウマチ			◆	◆				◆	◆		
手・末梢神経			◆					◆			
脊椎	◆					◆					
腫瘍		◆						◆			
股関節					◆					◆	
肩関節					◆					◆	
膝関節・スポーツ					◆					◆	
小児整形	◆					◆					
ヘルニア							◆				

診療科名	診療日										備考	
	初診					再診						
	月	火	水	木	金	月	火	水	木	金		
皮膚科 受付電話 435-2650												
	初診・再診	◆	◆	◆	◆	◆	◆	◆	◆	◆		
専門外来	アトピー性皮膚炎外来	◆	◆				◆	◆				
	脱毛症外来	◆		◆			◆		◆			
	乾癬外来		◆					◆				
	皮膚リンフォーマ外来				◆					◆		
泌尿器科 受付電話 435-2653												
	初診・再診	◆	◆	◆	◆		◆	◆	◆			
専門外来	腎移植外来				◆				◆			医師交代制
	排尿障害外来		◆	◆			◆	◆				
	不妊症外来	◆				◆	◆				◆	月曜日：第1、3、4、5週のみ
	腫瘍外来		◆	◆	◆		◆	◆	◆			
眼科 受付電話 435-2656												
	初診・再診	◆	◆	◆	◆	◆	◆	◆	◆	◆		火・金曜日：午前のみ
専門外来	網膜変性外来		◆				◆					
	斜視・弱視外来							◆				
	ロービジョン										◆	
	角膜外来									◆		第2週のみ（月により変更あり）
耳鼻咽喉科 受付電話 435-2659												
	初診・再診	◆	◆		◆	◆	◆	◆		◆	◆	
専門外来	腫瘍外来	◆			◆	◆	◆				◆	
	耳外来				◆						◆	
	耳鳴外来		◆				◆					
	難聴外来・人工内耳外来		◆				◆					
	睡眠時無呼吸・いびき外来	◆				◆	◆				◆	
	顔面神経外来		◆		◆		◆			◆		
	鼻副鼻腔・アレルギー外来	◆			◆		◆			◆		
	めまい外来			◆						◆		
産科婦人科 受付電話 435-2662 ※女性医師ご希望の方はお申し出ください												
	産科 初診・再診	◆	◆	◆	◆	◆	◆	◆	◆	◆		
	婦人科 初診・再診	◆	◆	◆	◆	◆	◆	◆	◆	◆		
	婦人科外来	◆	◆	◆	◆	◆	◆	◆	◆	◆		
専門外来	産科外来	◆	◆	◆	◆	◆	◆	◆	◆	◆		
	NIPT外来						◆					
	腹腔鏡外来				◆					◆		
	漢方外来				◆					◆		第1、2、4週のみ
	胎児診断外来		◆		◆		◆		◆			
	母親学級											予約制
	助産師外来											要問い合わせ
乳腺予防ケア外来											(午後には産科婦人科へ)	
ART室 受付電話 435-2664												
	不妊外来						◆	◆		◆	◆	
放射線科 受付電話 435-2665												
	放射線治療科 放射線治療外来	◆	◆	◆	◆	◆	◆	◆	◆	◆		
	放射線診断科 IVR外来		◆					◆				
麻酔科蘇生科 受付電話 435-2668												
	初診・再診	◆	◆	◆	◆	◆	◆	◆	◆	◆		
	いたみセンター	◆					◆					
リハビリテーション科 受付電話 435-2747												
	初診・再診	◆	◆	◆	◆	◆	◆	◆	◆	◆		要問い合わせ 午前のみ
専門外来	義肢・装具外来			◆					◆			
	嚥下外来	◆		◆			◆		◆			午後のみ
	痙縮外来		◆				◆			◆		
	高次脳外来	◆			◆		◆			◆		
形成外科 受付電話 435-2496												
	初診・再診	○	○	○	○		○	○	○	○		木曜日：リンパ浮腫
歯科口腔外科 受付電話 435-2673												
	初診・再診	◆	◆	◆		◆	◆	◆	◆	◆		
専門外来	唇顎口蓋裂外来											専門外来の診察日は不定期のため、歯科口腔外科外来受付電話にお問い合わせください
	顎補綴											
	矯正歯科											

※市外からお電話の場合は、電話番号の前に市外局番（053）を付けてください。

浜松医科大学医学部附属病院